

1992年9月29日

ホンダ・レジェンドをマイナーモデルチェンジ。グランドツアラーとして「 α ツーリング」タイプを追加するなどシリーズを一段と充実。

本田技研工業(株)は、快適で高い運動性能と、世界トップレベルの安全性能を兼ね備えた高級ドライバーズカー「レジェンド」シリーズをマイナーモデルチェンジ。熟成を深めるとともに、グランドツアラーとして「 α ツーリング」タイプをセダン、クーペ両モデルに追加し、10月1日（ α ツーリングは10月10日）より全国のクリオ店から発売する。

マイナーチェンジの主な内容

- さらにパワーアップした最高出力235馬力のタイプIIエンジンと、一層強化した足回りやシャーシ性能によって、爽快な走りの「 α ツーリング」をタイプ設定。
- ファジー理論の応用により、登降坂や市街地の走行でも、なめらかなシフト制御をもたらすオートマチック「プロスマテック（タイプF）」の採用。
- 高い静粛性、快適性を実現するための徹底した騒音・振動対策。
- 忠実な原音再生を可能にした高級オーディオ「レジェンド・ピュアサウンドシステム」のオプション設定。
- 高精度の「ホンダ・ナビゲーションシステム」にGPS機能を追加し、実用性を一段と向上。
- 標準装備のオート・エアコンディショナーに、オゾン層を破壊しない代替冷媒R134aを採用。リサイクル対応として、樹脂部品のマーキングを大幅に増加。

これらの、エンジンから各種装備類に至るまでのきめ細やかなリファインにより、さらなる熟成を図り、自ら運転する喜びを一層味わって戴ける質の高いドライバーズカーを目指した。同時に、地球環境へ配慮したクルマづくりもさらに推し進めている。

レジェンド・セダン α ツーリングレジェンド・クーペ α ツーリング

●「 α ツワーリング」のタイプ設定。

- 定評のFFミッドシップ縦置3.2ℓV型6気筒エンジンに吸・排気効率の改善を施し、235PS/6,300rpmの高出力を達成。また、F-1エンジンに使用されているコンロッドメタル材を量産車で初めて採用したほか、アクセルペダルのストローク量とスロットル開度のチューニングを行い、低回転から高回転までの一層スムーズな吹き上がりを実現し、爽快な走りとした。
- 大径ディスクブレーキの採用やサスペンションのチューニングにより、ハイパワーに相応しい足回りとした。
- 高性能な215/55R16 91Vタイヤと新設計の16インチアルミホイールを採用し、強化されたボディ剛性とあいまって、しなやかでスポーティな走りを実現。

●新開発オートマチック「プロスマテック (タイプF)」の採用

- ファジー理論を応用した知能的な変速スケジュールシステムによって、アクセルの踏み込み量や加速度などの情報を総合判断し、ひとの感性にマッチした最適なシフト制御を行い、なめらかなドライビングを可能としている。

●徹底した騒音・振動対策

- 振動入力を低減しながら、操縦安定性と乗り心地を高次元でバランスさせる新レイアウトのエンジンマウンティングシステムの採用や発泡タイプの軽量高性能制振材によって、一層高い静粛性を確保。

●高級オーディオ「レジェンド・ピュアサウンドシステム」の採用 (全タイプにメーカーオプション)

- 先端のカーオーディオメーカー「アルパイン」の技術協力による、高出力アンプやホーンツイーターを代表とする高性能スピーカーシステムの採用。
- マニアのためのオーディオブランドとして高い実績を持つ「ラックスマン」によるレジェンドの居住空間専用の徹底したサウンドチューニングにより、忠実な原音再生を実現。

●GPS付き「ホンダ・ナビゲーションシステム」の採用 (β IIを除く、メーカーオプション)

- 従来のガスレートセンサー方式に加えて、人工衛星からの電波で現在位置を測定するGPS (グローバル・ポジショニング・システム) を補助システムとして導入。これにより、フェリーでの移動後やマップ上にない道路を長距離にわたって走行した後などにも自動的に自車位置を補正する機能が加わった。
- 地図データベースを細部にわたり見直し、GPS機能と合わせて、より一層使い勝手を向上。

●その他の主な変更内容

- メーターパネルやリアエンブレム、フロントグリル、アルミホイールなど内外装のデザインを変更し、一層高い質感と機能性を追求。
- β IIにキーレスエントリー、車速連動オートドアロックなどを追加し、装備をさらに充実。

●販売計画台数（国内・月間）

レジェンドシリーズ合計 1,200台

●希望小売価格（消費税含まず）

全タイプとも7ポジション電子制御4速オートマチック車

単位：千円

| 車名 | タイプ | 東京 | 名古屋 | 大阪 | 福岡 | 仙台 | 札幌 |
|-----------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| レジェンド・セダン | β II | 3,354 | 3,363 | 3,370 | 3,385 | 3,372 | 3,401 |
| | β | 3,834 | 3,843 | 3,850 | 3,865 | 3,852 | 3,881 |
| | α ツーリング | 4,174 | 4,183 | 4,190 | 4,205 | 4,192 | 4,221 |
| | α | 4,304 | 4,313 | 4,320 | 4,335 | 4,322 | 4,351 |
| レジェンド・クーペ | β | 3,864 | 3,873 | 3,880 | 3,895 | 3,882 | 3,911 |
| | α ツーリング | 4,374 | 4,383 | 4,390 | 4,405 | 4,392 | 4,421 |

主な標準装備

- 運転席用SRSエアバッグシステム
- 助手席用SRSエアバッグシステム（セダン β IIを除く）
- 前席シートベルト・プリテンショナー
- 3チャンネル・デジタル制御ABS（4輪アンチロックブレーキシステム）
- トラクションコントロールシステム（セダン β II、 β 、クーペ β を除く）
- フルオート・エアコンディショナー
- 電動スモークドガラス・サンルーフ（セタンを除く）

- 注）1. 助手席用SRSエアバッグシステムは100千円高で、セダン β IIに装着車を設定。（その他のタイプは標準装備）
2. 本革シート仕様（本革ヒーターシート、革巻ステアリングホイール、革巻セレクトレバー）は、230千円高。
3. 電動スモークドガラス・サンルーフは、セダンに110千円高で装着車を設定。
4. ピュアサウンドシステムは、280千円高。
5. ホンダ・ナビゲーションシステムは、600千円高。

●**αツーリング・セダン／クーペの主要諸元**

| | | レジェンド・セダン αツーリング | レジェンド・クーペ αツーリング |
|-------|------------------------------------|---------------------------|-------------------|
| 車名・型式 | | ホンダ・E-KA7 | ホンダ・E-KA8 |
| 寸法・重量 | 全長/全幅/全高 (m) | 4,940/1,810/1,405 | 4,880/1,810/1,370 |
| | ホイールベース (m) | 2,910 | 2,830 |
| | トレッド (m) 前/後 | 1,550/1,540 | |
| | 車両重量 (kg) | 1,590※1 | 1,590※2 |
| | 乗車定員 (名) | 5 | |
| エンジン | エンジン型式 | C32A | |
| | エンジン種類 | 水冷V型6気筒縦置 (無鉛プレミアムガソリン使用) | |
| | 総排気量 (cm ³)/内径×行程 (mm) | 3,206/90,0×84.0 | |
| | 圧縮比 | 10.0 | |
| | 燃料供給装置形式 | 電子燃料噴射式 (ホンダPGM-FI) | |
| | 燃料タンク容量 (ℓ) | 68 | |
| 性能 | 最高出力 (PS/rpm)*ネット値 | 235/6,300 | |
| | 最大トルク (kgm/rpm)*ネット値 | 29.5/5,200 | |
| | 燃料消費率 10・15モード走行 (km/ℓ) (運輸省審査値) | 8.2 | |
| | 60km/h定地走行 (運輸省届出値) | 14.6 | |

※1 サンルーフ装着車は1,610 ホンダ・ナビゲーションシステム装着車は1,610

※2 ホンダ・ナビゲーションシステム装着車は1,610

■*ネット値：エンジン出力表示には、ネット値とグロス値があります。「グロス」はエンジン単体で測定したものであり、「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。同じエンジンで測定した場合、「ネット」は「グロス」より約15%程度低い値 (自工会調べ) となっています。

■モード走行時における燃料消費率の表示は順次「10モード」から「10・15モード」に切替わります。「10・15モード」は都市内高速行等が加味されているため、同じ車両で測定した場合「10モード」より平均的には小型・普通乗用車で10%程度高い値 (自工会調べ) となります。

■燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件 (気象、道路、車両、運転、整備などの状況) が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

■道路運送車両法による型式指定申請書数値